

ネットワークアンケート ③6

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院では、通院する糖尿病患者さんへ、糖尿病網膜症に関する指導を行っていますか？

糖尿病による眼の病気、とくに糖尿病網膜症の怖さは、失明の危機に直面するまで、自覚症状がほとんど現れないこと。糖尿病から眼を守るためには、継続的な指導と定期的な検査が大切です。今回のアンケートでは、糖尿病網膜症の知識や管理について伺いました。

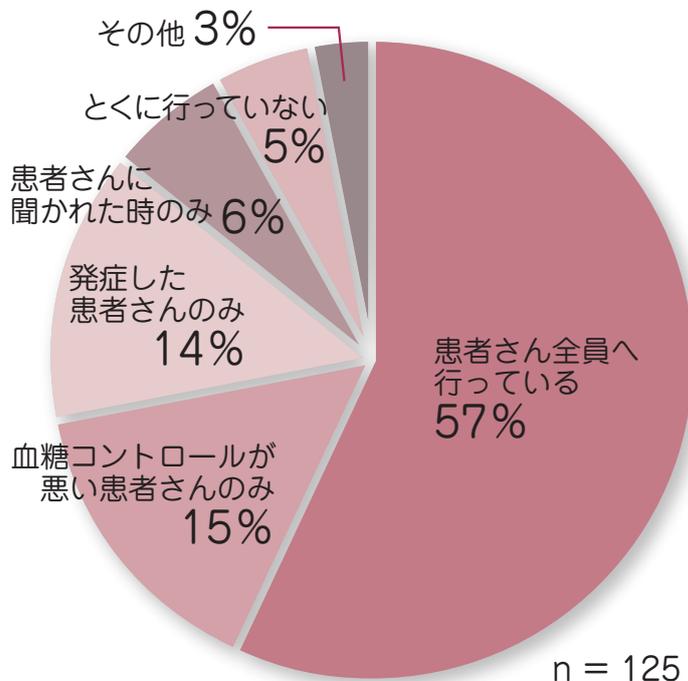
[回答数：医療スタッフ125名(医師16、看護師50、管理栄養士27、臨床検査技師10、薬剤師16、その他6。うち日本糖尿病療養指導士44)、患者さんやその家族500名(病態/1型糖尿病171、2型糖尿病306、糖尿病境界型13、その他10、治療内容/食事療法365、運動療法297、経口薬266、注射薬36、インスリン療法278/重複回答有)]

「患者さん全員へ行っている」のは6割弱でした。同時に、定期的な眼科受診を勧めているかとの問いについては、全員へ勧めているとしたのは68%。しかし、通院する患者さんの網膜症の有無を「把握していない」と回答した方は40%と、把握率の低さが浮かび上がりました。眼科との連携でみると、「眼に病気のある患者さんについては情報交換を行っている」が最も多く31%、「詳細は眼科に任せている」が26%と、眼のケアについては必要に応じて対応することが多いのが現状のようです。

さらに、患者さんの眼科受診の記録について聞いてみると、「記録されたものをみることはない」が37%と最も多く、「糖尿病連

携手帳」(日本糖尿病協会)が24%、「糖尿病眼手帳」(日本糖尿病眼学会)が23%と続きました。一般的に使用されている記録用手帳について

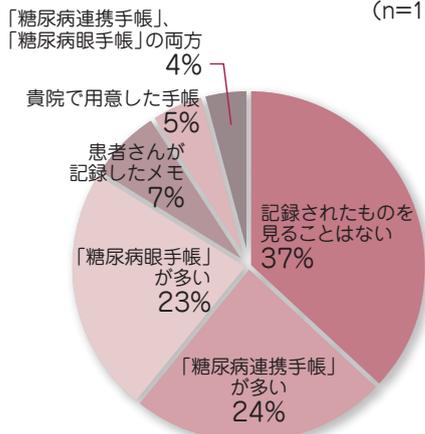
は、「糖尿病眼手帳」は76%が「知っている」と答えたものの、「指導に使っている」方は30%、「糖尿病連携手帳」の眼底検査欄については、83%が「知っている」との答えでしたが、「指導で使っている」方は31%と活用率の低さが目立ちました。また、回答者の職種別にみてもあまり差異は見受けられませんでした。



自由記述では、「全糖尿病患者さまへ眼科受診を指導したいが、実際は手がまわらず初診患者のみとなっている」、「内科医院と眼科医院のような、独立営業同士だと連携が難しい」、「マスコミなどを通して糖尿病と眼の病気という観点からも啓発する事が必要だと思う」など、体制構築の厳しさを訴える声が多く寄せられました。

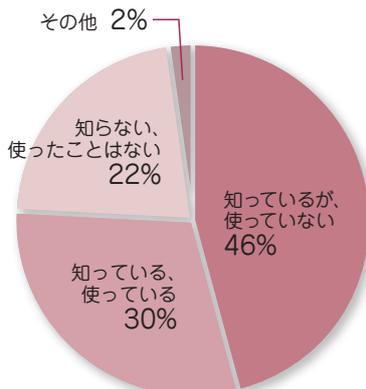
Q. 患者さんの眼科受診の記録は何で確認していますか？

(n=125)



Q. 「糖尿病眼手帳」をご存知ですか？ 日頃の療養指導で使っていますか？

(n=125)



Q. 「糖尿病連携手帳」の眼底検査欄をご存知ですか？ 日頃の療養指導で使っていますか？

(n=125)

